様式1

# 令和３年度　学校評価表

| 学校教育目標 | 自ら学び，心豊かに，たくましく未来を切り拓く生徒の育成 |
|---|---|

| a　ミッション | 中学校区で取り組む自己有用感を育む教育の推進 | a　ビジョン | 確かな学力を身に付け，自他を尊重し，保護者・地域から信頼される学校 |
|---|---|---|---|

尾道市立　久保中学校

| 評価計画 | | | | | | 自己評価 | | | | | | 学校関係者評価 | | | | 改善計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | b 中期経営目標 | c 短期経営目標 | d 目標達成のための方策 | e 評価指標 | f 目標値 | | 12月 g達成値 1年 | 12月 g達成値 2年 | 12月 g達成値 平均 | h 達成度 | i 評価 | j 結果と課題の説明 | k 二次評価 イ | k 二次評価 ロ | k 二次評価 ハ | l コメント | m 改善案 |
| 資質・能力の育成 | 授業改善を進め，生徒の基礎学力の定着と，「わかる」「できた」を感じる授業づくりを進める | 基礎学力の定着を図る | 授業のねらいと振り返りを整合させ，振り返りで，1時間の授業内容において視点を明確にして伝える（書く）ことができるようにする。 | 久保検定（国社数理英）：６０%以上の生徒 | 80% | 国語 | 88 | 97 | 87.8 | 109.8% | A | ・目標値を達成することができている。しかし，学年や教科によっては目標値を下まわっているところもある。<br>●久保検定週間の朝自習のときに、練習プリントをやらせたら成果があった。<br>●授業内で、類似プリントで演習を行うと成果があった。<br>●２年生は久保検定の経験が多いため意欲が高い。<br>▲勉強している生徒は、意識が高いが、教員が下準備をしても勉強しない生徒が増えてきた。 | ○ | | | ・家庭学習が定着していない子が固定化し，学力差が広がりつつあります。この事が「学校に行きづらい」要因のひとつにもなっているので，基礎学力の定着は，不登校未然防止も含め，生徒指導の充実にもつながると感じている。 | ・保護者に未提出課題を伝える紙を用意する等して，学校全体で課題をやりきる取組を行う。<br>・学習内容が定着をしていない生徒には，補習を行う。<br>・授業内で久保検定の予備問題をやらせて，学習内容の定着を図る。 |
| | | | | | | 社会 | 79 | 77 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 数学 | 89 | 88 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 理科 | 89 | 86 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 英語 | 97 | 88 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 全体 | 88.4 | 87.2 | | | | | | | | | |
| | | | | 久保検定（国社数理英）：３０%以下の生徒 | 8% | 国語 | 2 | 0 | 2.9 | 105.5% | A | | | | | | |
| | | | | | | 社会 | 5 | 8 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 数学 | 3 | 3 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 理科 | 1 | 2 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 英語 | 1 | 4 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 全体 | 2.4 | 3.4 | | | | | | | | | |
| | | 理由や根拠を明確にした説明力を高める | 対話的学びを取り入れ，理由や根拠を明確にした授業展開を行う。 | 教職員アンケート：「理由や根拠を明確にして伝えるように指導している」割合<br>生徒アンケート：「授業では，理由を明らかにして，相手に伝えるようにしている」割合 | 教師90%<br>生徒70% | 7月 | 【教師】76.9%<br>【生徒】1年76.1%<br>2年69.8%<br>3年79.5% | | 【教師】92.9%<br>【生徒】80.0% | 【教師】103.2%<br>【生徒】107.1% | A | ●研修や校内研究授業により、教員の意識が向上した。<br>●教員の意識向上により、授業内で説明の時間が増えたことで生徒の意識向上につながった。<br>▲１年生は教科の内容が難しくなったことと、提出物をやりきることができていない生徒が増えているためテストの点数が下がっている。<br>▲テストの点数に比例して、説明力も低下している。 | ○ | | | ・対話的な学びを取り入れる時は，ペアやグループなどで「対話すること」が目的とならないことが大切だと思います。対話したことで，自分にどのような新たな学びがあったのか等，対話的な学びの本来の意義に，生徒が気づいていくことが，説明力の向上にもつながります。 | ・授業始めの場面で，キーワードを使い既習事項の復習を説明させる。<br>・授業内の振返りの場面で，ペアで説明させる。 |
| | | | | | | 12月 | 【教師】92.9%<br>【生徒】1年68.8%<br>2年84.8%<br>3年87.8% | | | | | | | | | | |
| 生徒指導の充実 | 自他を認め，学校，地域に誇りを持つ生徒を育成する | 生徒の自己有用感を向上する | チーム久保中をめざして，授業，生徒委員会，部活動等自己有用感を高める取組を行う。教育相談体制を確立し，不登校及び不登校傾向の生徒に対して支援を行う。 | 生徒アンケート：「自分の良さは周りの人から認められていると思う」割合 | 73% | 7月 | 1年 67%<br>2年 78%<br>3年 68% | | 71%<br>↓<br>80% | 109% | A | ●個人長所カードによって，自分の良さを客観的に知ることができたため自己有用感を感じる生徒が増えた。<br>▲表彰の場面の設定が遅く，文化面や運動面での功績が薄れている。<br>▲１年は，生徒指導の機会が多く，個別を評価して自己有用感を高める取組が不十分だった。 | ○ | | | ・「自己有用感」を高めるための，「個人長所カード」はよい取組だと思います。久保中の生徒からもらった「児童の良いところカード」は児童もとても喜んでいました。小中が連携して，児童・生徒の自己有用感を高める取組を継続して行ってください。 | ・各委員会の活動を各クラスで紹介し，評価をする場面を増やす。<br>・各委員会で活動の振り返りを行い，担当教員が生徒の活動内容を評価する場面を設定する。<br>・個別の生徒や委員会活動などを評価する場面を適切に設定し，生徒の活躍や成果の詳細が他の生徒や教員に伝わるようにする。 |
| | | | | | | 12月 | 1年 75%<br>2年 84%<br>3年 80% | | | | | | | | | | |
| | | 久保中に誇りを持つ生徒を育成する | 生徒主体の活動を意図的に仕組む。<br>あらゆる場面で承認活動を行う。 | 生徒アンケート：「学校やクラスの行事に参加することは楽しい」割合 | 85% | 7月 | 1年 82%<br>2年 95%<br>3年 87% | | 88%<br>↓<br>89% | 104% | A | ●学年別体育発表会や全校アイスブレイクなど，集団で楽しめる取組を実施できたことで数値が上がった。<br>▲行事に重圧を感じる生徒への支援を工夫する必要があった。 | ○ | | | ・コロナ禍の中，学校行事の中止や規模の縮小を余儀なくされる中，学校として行事を工夫するなど，生徒が生き生きと活動する場をつくっていることがよく分かった。 | ・生徒主体の全校アイスブレイクを継続し，生徒同士の協力や関わりが楽しいと思える機会を増やす。<br>・学校全体の行事だけでなく，生徒が主体的に活動できる学年レクリエーションを定期的に実施し，短い期間で充実感や達成感が得られる場を設ける。 |
| | | | | | | 12月 | 1年 83%<br>2年 91%<br>3年 95% | | | | | | | | | | |
| **久保小学校とともに** | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ともに学ぶ学校づくり | 小中学校が同じ場所で学ぶ良さを生かす | 自分から愛掛ができる生徒を育成する | 活気ある愛掛が交わされる学校をめざした取組を行う。 | 教師アンケート：「本校の生徒は，自分から挨拶をしている」割合<br>生徒アンケート：「地域や学校で自分から挨拶をしている」割合 | 教師90%<br>生徒90% | 7月 | 【教師】61%<br>【生徒】1年 80%<br>2年 78%<br>3年 85% | | 【教師】61%<br>↓<br>64%<br>【生徒】81%<br>↓<br>83% | 【教師】90%<br>【生徒】92% | B | ●中学校区の小学校の児童会に「愛掛」の周知を行い，児童会の取組を知る機会を作ることができた<br>●部活動を中心として校内では挨拶をする機会が増えている。また，３年は礼法指導の機会があり，中心となる生徒が挨拶の手本を示す場面が増えた。<br>▲学校全体に「愛掛」を広げるための生徒主体の取組ができなかった。<br>▲教師と生徒の挨拶に対する意識の差が依然として大きい。 | ○ | | | ・地域で出会っても中学生がよく愛掛をしてくれます。日々の取組の成果だと思います。また，小学校と一緒の挨拶の取組により，小学生も進んで挨拶が出来る児童が増えています。今後は児童生徒同士で愛掛の輪が広がることを期待します。 | ・部長会を中心として，各部活での挨拶を学校生活の中にいかす取組をつくる。<br>・小学校の児童会と交流を継続させ，「愛掛」の周知を図り，「愛掛」に対する意識を高める。<br>・生徒会を中心にして，前向きに挨拶ができる取組を計画・実行する。 |
| | | | | | | 12月 | 【教師】64%<br>【生徒】1年 75%<br>2年 82%<br>3年 92% | | | | | | | | | | |

【自己評価　評価】
A：１００≦（目標達成）　　B：８０≦（ほぼ達成）＜１００
C：６０≦（もう少し）＜８０　　D：（できていない）＜６０